

看護系大学におけるNICU実習の現状と研究動向に関する文献検討

小平由美子¹⁾, 河村江里子²⁾, 新家一輝³⁾

A Literature Review Concerning Current Situation and Research Trend in Neonatal Intensive Care Unit (NICU) Nursing Practice for Undergraduate Students

Yumiko KOHIRA, Eriko KAWAMURA, Kazuteru NIINOMI

要 旨

目的：看護系大学におけるNICU実習の現状と研究動向について、文献レビューから明らかにすることである。

方法：医学中央雑誌Web版Ver. 5を使用し、“実習”“NICU”“新生児”をキーワードに検索し、2000年から2019年7月までに発表されたすべての文献の中から、最終的に16文献を対象とした。

結果：16文献における研究の動向は、2010年代以降に文献が微増しており、研究対象は、ほとんどが学生であった。NICUにおいて臨地実習を担当している領域は、ほとんどが小児看護学であった。実習内容は、主に見学実習を展開していた。

結論：看護系大学におけるNICU実習の現状と研究動向について文献レビューの結果、学生の看護実践能力の向上を目指し、効果的な教育内容を視野に入れたNICU実習について、検討していく必要性が示唆された。

キーワード：NICU（新生児集中治療室）、看護学実習、文献レビュー

Key words: NICU (Neonatal Intensive Care Unit), nursing practice, literature review

I 緒 言

文部科学省は、看護実践能力の向上を含む看護基礎教育の充実を目指し、平成31年4月より「看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～（以下、コア・カリとする）」の導入について、大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会において、看護系大学に周知してきた(文部科学省, 2017)。これを受けて各大学は、カリキュラムの再編を行ってきた。特に臨地実習においては、学生の

看護実践能力の修得レベルの未熟性によるリスクマネジメントの必要性が課題となっており、これらを考慮しながら、地域におけるヘルスプロモーション等、医療の現状を踏まえつつ、学生が看護を展開する能力を修得できるよう臨地における指導体制の充実が期待されている(文部科学省, 2017)。

小児看護学分野における臨地実習の現状は、少子化による小児病棟の縮小における実習施設の減少および早期退院により対象となる子どもと家族を受け持つことの困難さの問題(大見ら,

1) 岐阜聖徳学園大学看護学部

2) 名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻

3) 名古屋大学大学院医学系研究科

Faculty of Nursing, Gifu Shotokugakuen University

Department of Nursing, Graduate School of Medicine, Nagoya University

Graduate School of Medicine, Nagoya University

2007) や, 小児看護学実習の実習形態や新たな指導方法の必要性が指摘されている(宮谷ら, 2013). 小児看護学分野におけるコア・カリに提示されている課題は, 「バランスのとれた実習」「医療的ケア児を含めた母子が関わる場面」(文部科学省, 2017)であることから, 昨今, 小児看護学分野においては, 臨地実習の課題を達成すべく, 従来の小児病棟だけでなく, 保育所, 重症心身障害児(者)病棟等にて実習を展開している. 更に, コア・カリの目標である“医療の現状を踏まえた地域におけるヘルスプロモーション”を考慮した経験の幅を広げる実習展開を視野に入れている. こうした実情に加えて, 昨今の周産期医療の高度化によるハイリスク児の救命率の著しい増加による新生児集中治療室(Neonatal Intensive Care Unit: 以下, NICUとする)に入院する子どもとその家族への看護体制の整備は喫緊の課題であり, 避けて通れない現状があることから(厚生労働省, 2018), 小児看護学領域の臨地実習においてNICU実習の導入を考慮する必要があると考える. しかし, 本邦における看護系大学のNICU実習の現状における研究に関する文献レビューは見当たらなかった.

そこで本研究は, 看護系大学におけるNICU実習の現状と研究動向について, 文献レビューから, 年次推移, 研究デザイン, 研究対象を概観し, 実習担当領域, 実習方法, 実習時間を整理することで, NICU実習の現状を明らかにし, 看護実践能力向上を目指した, より効果的なNICU実習内容への示唆を得ることを目的とした.

II 方法

1. 文献の検索過程

医学中央雑誌 Web 版 Ver. 5 および CiNii, EBSCOhost をデータベースとして使用し, 検索した. シソーラス用語から, “実習” AND “NICU” AND “新生児” をキーワードとして検索した. 2000年から2019年7月までに発表されたすべての文献を対象とした.

2. 包含/除外基準

該当した43文献のうち, 会議録および解説や特集等, また, 看護学実習および看護教育以外のものは除外し, 研究目的に沿った内容を包含していた16文献を分析対象とした.

3. データ分析

本研究では, ①年次推移, ②研究デザイン, ③研究対象について分類し, さらに, ④実習展開方法(実習担当領域, 実習内容, 実習時間), ⑤NICU実習に対する学生の認識から, NICUにおける臨地実習の現状および動向について整理および概観し, 【NICUの印象】【NICUに入院している子どもへの感情】【親子関係への認識】【NICU看護への認識】について分類した.

III 倫理的配慮

各文献の結果を忠実に読み取るよう努めた.

IV 結果

分析対象とした文献のリストについては, 表1に示す.

1. 年次推移

対象とした16文献の発表の年次推移を概観したところ, 「2000～2009年」が6件, 「2010年以降」が10件であった.

2. 研究デザイン

1) 質的研究

対象文献の研究デザインは, 質的帰納的研究, 内容分析等「質的研究」が7件(白坂ら, 2012; 今井, 2013; 岡ら, 2014; 蚊口ら, 2015; 白石, 2017; 田村ら, 2017; 鈴木ら2019)であった.

2) 量的研究

「量的研究」は, 質問紙調査, text mining等の6件(大久保ら2001a, 2001b; 和田ら, 2002; 大久保ら, 2005; 大高ら, 2013; 椎葉ら, 2015)であった. 質問紙調査は, 主に学生が, 実習中に子どもとの間で抱いた感情に着目していた.

3) その他

看護系大学におけるNICU実習の現状と研究動向に関する文献検討

表1 NICUにおける臨地実習の現状と研究動向に関する文献リスト

| タイトル | 発行年 | 研究デザイン | 対象 | 担当領域 | 実習内容 | 時間 | NICU実習に対する学生の認識 |
|--|------|--------------------|----|----------|------------|---------|--|
| 鈴木 桂子, 高原 楓 (2019): 低出生体重児と触れ合うことによるNICU実習の効果, 日本看護学会論文集: 小児看護, 49, 75-78. | 2019 | 質的研究 | 学生 | 小児看護学 | 実施 | 不明 | 33のサブカテゴリートと「児に触れることの難しさ」「児の命を守るための異常の早期発見」「ホールディングによる児との対話と苦痛緩和」などの10カテゴリートが抽出された。 |
| 玉村 尚子, 小西 美樹, 井上 ひとみ他 (2017): NICU実習を通じた看護学生の学び ディベロップメンタルケアと児に出会って感じたこと・考えたこと, 獨協医科大学看護学部紀要, 10, 23-32. | 2017 | 質的研究 (帰納的) | 学生 | 小児看護学 | 見学 | 1日 | ディベロップメンタルケアについて, 246のコード, 24のサブカテゴリートから《音》《光》《温度・湿度》《ボジショニング》《ストレスの少ないケア》《スキニング》《家族ケア》の7つのカテゴリートが生成された。児に出会って感じたこと・考えたことについて, 151のコード, 14のサブカテゴリートから《小さな体で一生懸命生きている》《児の思いを汲み取りながらケアしている》《早産で生まれた児の発達促進ケアに気づく》《両親の児に対する思いを汲み取りながら親子関係を支援している》《児や両親が多くの人に支えられている》の5つのカテゴリートが生成された。 |
| 白石 佳子 (2017): 早産となった母親との関わりをとおしての学生の経験, 山口県立大学学術情報, 10, 101-106. | 2017 | 質的研究 (帰納的) | 学生 | 小児看護学 | 不明 | 不明 | 母性看護学実習での経験から[対象への接近の工夫と戸惑い][褥瘡の気持ち, 思いへの気づき][出産を肯定的に承認し祝福する][母性意識の芽生え]についての心配[母児関係のスタートを確認して安心][母児分離の現実を理解][実習終了による寂しさや不安]の7つのカテゴリート, 小児看護学(NICU/GCU見学)実習での経験から[再会時の母親の姿に安堵][母児の関係性の発達への気づき][児の成長の様子を確認][NICU/GCU入院が長期にわたる現実を実感][父親のことについての心配]の5つのカテゴリートが抽出された。また, 実習指導者との関わりで[看護者としての関わりを学ぶ]という経験として1つのカテゴリート, 実習終了後は[家族のあり方や支援への興味・関心の高まり][母親としての役割や責任の理解][自己の将来像と課題を見出す]という経験として3つのカテゴリートが抽出された。 |
| 山口 雅子, 角真理 (2016): 母性看護実習における新たな試みとしての学生の評価, 和歌山県立医科大学保健看護学部紀要, 12, 49-56. | 2016 | その他 | 学生 | 在宅看護論 | 不明 | 1日 | CNSの介入, 家族介護手技の指導, 地域PHNとの連携, 産前からNICU・在宅までの継続した看護とその関わりNICUは救命だけでなく, 重篤な疾患をもつ児でも生を支えることが必要, 子として一人ひとりを尊重するケアが大切, 家族関係の形成をたすけるため母親の状況は抱く思いをキャッチし, 児とどう接するか親となる過程の援助の大切さ, GCUで笑顔の母親も児の状態が不安で悩み・悲しみを乗り越えて笑顔になっているということがわかった, NICUではモニターで管理されている児も多く, 医療者も家族も数値に着目してしまいがちだが, 数値では変化していなくても児の成長がわかる部分もたくさんあると気づいた。 |
| 椎葉 美千代, 田出 美紀, 福澤 雪子他 (2015): 母性看護学実習における二次医療施設と一次医療施設の学びと教授活動, 福岡女学院看護大学紀要, 5, 13-22. | 2015 | 量的研究 (text mining) | 学生 | 母性看護学 | 実習内容により異なる | 一部の施設のみ | 二次医療施設は分娩期の看護技術および妊娠期のモニター装着, 母性看護学の実習の経験率が低く, 一次医療施設は全ての看護技術において経験率が高かった。母性看護学実習目標に対する学びの場面のレポート記述で, 二次医療施設は「新生児集中治療室(NICU)」, 一次医療施設は「助産師, 分娩」の単語の使用頻度が高かった。 |
| 蚊口 理恵, 長鶴 美佐子, 福永 美紀他 (2015): 母と子のつながり"の視点を入れたNICU実習の学習効果, 日本看護学会論文集: 看護教育, 45, 110-113. | 2015 | 質的研究 (因子探索) | 学生 | 母性看護学 | 見学 | 1日 | 【妊娠期の母とのつながり】【出生後の母子(家族)のつながり】というカテゴリートが抽出され, 前者を構成するサブカテゴリートには【正産前まで母胎内で十分育まれることの大切さ】と【妊娠期の看護者の関わり的重要性】, 後者のサブカテゴリートには【母子分離状態にある母親の自責の念や我が子に対する思い】と【母子分離中の母親や家族への看護者の関わり的重要性】があった。 |
| 岡 澄子, 米山 雅子, 山下 亜美他 (2014): NICU見学実習における学生の「学び」—学生の実習記録から—, 神奈川県立保健福祉大学誌, 11 (1), 61-67. | 2014 | 質的研究 (内容分析) | 学生 | 小児看護学 | 見学 | 半日 | 【家族への援助】【ケア環境】【子どもへの援助】【学生の情動】【生命の誕生と危機】【多職種連携】の6カテゴリートが抽出された。 |
| 大高 麻衣子, 畠山 飛鳥, 平元 泉他 (2013): NICU実習における効果的な実習方法の検討, 秋田県母性衛生学会雑誌, 27, 43-46. | 2013 | 量的研究 | 学生 | 小児看護学 | 実施 | 半日 | 前年度との比較では, 感染予防(物品の取り扱い), 保育器の取り扱い(使用中の管理), 全身の観察(チアノーゼ), モニター(パルスオキシメーター), 排泄(おむつ交換), ディベロップメンタルケア(タッチング)の経験率が増加していた。学生が記載した見学・実施項目では, 感染予防が95%と最も多く, 次いで, NICUの構造・機能, ディベロップメンタルケアであった。 |
| 今井 由理 (2013): NICU実習において学生が学んでいること—看護の心に焦点をあてて—, 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録 教員・教育担当者養成課程看護コース, 38, 68-75. | 2013 | 質的研究 (帰納的) | 学生 | 小児看護学 | 実習内容により異なる | 1日 | 以下の11カテゴリートが生成された。1)子どもの命・成長の実感, 2)子どもの持つ能力(表現・反応・感じる力)の気づき, 3)子どもの苦痛な気持ちへの共感, 4)子どもの命に関わる観察の大切さ, 5)自分が関わることにに対する怖さ・疑問や困難, 6)気遣いのある関わり方の気づき, 7)子どもの状態変化を予防するケアの気づき, 8)関わりやケアが子どもの順調な成長・経過につながる気づき, 9)子どもに合わせたケアの気づき, 10)母親の思い・関わりへの気づき, 11)学びの過程に影響を与えた可能性のある因子であった。 |
| 白坂 真紀, 山地 亜希, 桑田 弘美 (2012): NICU/GCU実習における看護学生の学び 小児看護学実習記録の分析から, 滋賀医科大学看護学ジャーナル, 10 (1), 22-27. | 2012 | 質的研究 (記述的) | 学生 | 小児看護学 | 実施 | 1日 | 43サブカテゴリートから, 「早産児や疾患を持つ児を対象とした専門的な看護を理解」「母子関係確立と家族形成を支援する看護を学習」「NICUの高い専門性を認識」「NICUの特殊な環境を実感」などの10のカテゴリートがあげられた。 |
| 成田 みゆき (2006): 本校における母性看護学実習 2000年度~2005年度における検討内容と実践報告, 東京医科大学看護専門学校紀要, 16 (1), 23-48. | 2006 | その他 | 教員 | 母性看護学 | 実習内容により異なる | 1日 | |
| 糠塚 亜希子, 平元 泉 (2005): 実習記録用紙導入による低出生体重児の観察の意識付けへの効果, 日本看護学会論文集母性看護, 36, 104-106. | 2005 | その他 | 学生 | 母性看護学 | 見学 | 半日 | NICU実習の感想のカテゴリート別記述では【家族のかかわりと看護】【感染予防対策】【NICU看護師の資質】【児への感情とNICUの印象】【観察の重要性】【環境の調整】であった。 |
| 大久保 明子, 金井 幸子, 加固 正子 (2005): VTR教材「NICUの概要」の開発と有効性, 日本看護学会論文集: 小児看護, 35, 161-163. | 2005 | 量的研究 (質問紙) | 学生 | 小児看護学 | 見学 | 1日 | VTR教材は, 「NICU概要の理解」と「NICU入室方の理解と実習での役立ち」に効果的であり, 「理解しやすい」「動機づけ」「イメージ化」「視野の広がり」「意識づけ」の全項目で高い評価を得た。 |
| 大久保 明子, 福原 紀, 秋山 啓子他 (2001): NICU見学実習による対児感情の変化, 日本看護学会論文集看護教育31, 15-17. | 2001 | 量的研究 (質問紙) | 学生 | 小児看護学 | 見学 | 1日 | NICU実習後の対児感情は, 接近度が低下し, 拮抗指数が高くなり, 児に対する肯定的感情が低下し, 肯定と否定の感情の葛藤が強いことが示唆された。 |
| 和田 佳子, 大久保 明子 (2002): 母性及び小児看護学実習における看護学生の対児感情の変化, 新潟県立看護短期大学紀要, 8, 11-16. | 2002 | 量的研究 (質問紙) | 学生 | 小児・母性看護学 | 見学 | 1日 | 対象者の「接近感情得点」は, 母性看護学実習あるいは全ての臨床看護学実習終了後において, 小児看護学実習よりも有意に高く, 対象者の「回避感情得点」は, 母性看護学実習と小児看護学実習では, それらの間に有意差は認めず, 対象者によってあらわされた「対児感情」は, 母性・小児看護学実習の順序が彼らの感情に影響をおよぼさないことを示した。 |
| 大久保 明子, 和田 佳子, 秋山 啓子 (2001): NICU実習の学生の対児感情におけるカンファレンス導入の効果, 新潟県立看護短期大学紀要, 7, 3-8. | 2001 | 量的研究 (質問紙) | 学生 | 小児看護学 | 見学 | 1日 | カンファレンスをしなかった学生の接近度は有意に低下し, 拮抗指数が有意に高くなった。カンファレンスを行った学生の接近・回避得点および拮抗指数はともに有意に低下した。 |

「その他」は、3件（糟塚ら、2005；成田、2006；山口ら、2016）であった。調査の詳細は、臨地実習の内容に関するものであり、主に臨地実習の記録用紙の形式、実習施設の相違、実習の評価を検討するものであった。

3. 研究対象

研究の対象は、「学生」が15件、「教員」が1件であった。

1) 学生を対象とした研究

ほとんどが学生の臨地実習における実習記録からの分析であり、13件であった。さらに、学生へのインタビューを実施しているものは、2件みられた。

2) 教員を対象とした研究

「教員」を対象とした研究は、1件であり、臨地実習や実習記録の内容に関する検討についての研究であった(成田、2006)。

4. 実習担当領域

NICU実習を担当した領域は、「小児看護学」が10件と最も多く、次いで「母性看護学」3件、「その他」3件であった。「その他」は、母性看護学から小児看護学への継続実習(和田ら、2002)や、小児看護学から在宅看護論への継続実習(山口ら、2016)であった。母性看護学実習から小児看護学実習への継続看護の視点による臨地実習の担当領域に関する研究(白石、2017)もみられた。

5. 実習の展開

1) 実習内容

NICU実習における臨地実習の内容についての研究は、「見学」が8件と最も多かった。研究に示されていた具体的な見学実習の内容は、NICU病棟の医療および看護の概要についてのオリエンテーションや、NICU病棟の施設としての特殊性についての内容紹介が多くを占めていた。NICU看護の基盤である、子どもの発達を促進する目的であるディベロップメンタルケアや、ファミリーセンタードケア

(Family Centered Care)をはじめとする家族面会の見学を実施しているところもあった(白坂ら、2012；田村ら、2017)。学生の記述内容は、【児の思いを汲み取りながらケアしている】【両親の児に対する思いを汲み取りながら親子関係を支援している】等がみられた(田村ら、2017)。一方3件は、見学実習だけでなく、学生が看護を実施していることを報告していた。具体的な実施内容の記述は、体温測定をはじめとしたバイタルサイン測定の実施(白坂ら、2012)や、オムツ交換、更衣、抱っこ等、日常生活援助の実施(大高ら、2013；鈴木ら、2019)であった。

2) 実習時間

NICU実習における実習時間は、「1日」が最も多く、10件であった。また、1日の実習時間のうち、NICUと回復治療室(Growing Care Unit：以下、GCUとする)を午前/午後と交替で実習しているところもあった(山口ら、2016；白石、2017)。実習時間が「半日」は、3件であった。

6. NICU実習に対する学生の認識

NICUにおける臨地実習に対する学生の認識について、1) NICUの印象、2) NICUに入院している子どもへの感情、3) 親子関係への認識、4) NICU看護への認識に分類された。一方、教員のNICU実習に対する認識を調査した文献は見当たらなかった。

1) NICUの印象

NICU実習における学生の臨地実習の印象について、【NICUの特殊な環境を実感】【NICUの高い専門性を認識】(白坂ら、2012)、【NICUではモニターで管理されている児も多く、医療者も家族も数値に着目してしまいがちだが、数値では変化していなくても児の成長がわかる部分もたくさんあると気づいた】【NICUは救命だけでなく、重篤な疾患をもつ児でも生を支えることが必要】(山口ら、2016)、【NICU/GCU入院が長期にわたる現実を実感】(白石、2017)を認識していた。

2) NICUに入院している子どもへの感情

NICU実習中に子どもとの間で抱いた感情について学生は、【子どもの苦痛な気持ちへの共感】【子どもの命・成長の実感】【子どもの持つ能力(表現・反応・感じる力)】(今井, 2013), 【児の成長の様子を確認】【対象への接近の工夫と戸惑い】(白石, 2017), 【小さな体で一生懸命生きている】(田村ら, 2017), 【児に触れることの難しさ】(鈴木ら, 2019)を表出していたことが報告されていた。

3) 親子関係への認識

【母子関係を理解し、母子・家庭関係障害のリスクを認識】(白坂ら, 2012), 【母子分離状態にある母親の自責の念や我が子に対する思い】【出生後の母子(家族)のつながり】(蚊口ら, 2015), 【父親のことについての心配】【母児の関係性の発達への気づき】【母児分離の現実を理解】(白石, 2017), 【児や両親が多くの人に支えられている】(田村ら, 2017)との記述より、親子関係確立と家族形成を支援するNICU看護の特徴がみられた。

4) NICU看護への認識

実習を通して、学生が認識したNICU看護は【児と家族を支える包括的なサポート】【生命に携わる看護師の仕事】【個々の児の人格を尊重した愛情ある看護】【母子関係確立と家族形成を支援する看護】【早産児や疾患を持つ児を対象とした専門的な看護】(白坂ら, 2012), 【関わりやケアが子どもの順調な成長・経過につながる気づき】【子どもの状態変化を予防するケア】【気遣いのある関わり方】(今井, 2013), 【感染予防(物品の取り扱い), 保育器の取り扱い(使用中の管理), 全身の観察(チアノーゼ), モニター(パルスオキシメーター), 排泄(おむつ交換), ディベロップメンタルケア(タッチング)】(大高ら, 2013), 【母子分離中の母親や家族への看護者の関わり】(蚊口ら, 2015), 【児とどう接するか親となる過程を支える】【生まれる前から疾患を抱えた児の情報をもとに、看護師が産前訪問する】【産前からNICU, 在宅までの継

続した看護とその関わり】【地域の保健師との連携】(山口ら, 2016), 【児の思いを汲み取りながらケア】【早産で生まれた児の発達促進ケア】【両親の児に対する思いを汲み取りながら親子関係を支援】(田村ら, 2017), 【児の命を守るための異常の早期発見】【ホールディングによる児との対話と苦痛緩和】(鈴木ら, 2019)であった。

V. 考 察

1. 大学教育における周産期医療の社会的背景と現状

看護系大学のNICUにおける臨地実習に関する研究の現状について概観した結果は、NICUにおける看護の重要性について指摘されているにも関わらず(厚生労働省, 2018), 看護基礎教育におけるNICU実習について調査した文献は16件のみであった。一方、2010年度以降、文献が微増傾向にあるのは、小児病棟の縮小における実習施設の減少による実習施設の確保の困難さ(大見ら, 2007)による、小児看護学を学ぶ場としてNICU実習を導入する大学が増加傾向にあり、それに伴いNICU実習に関する研究について進められてきたことが考えられる。さらに、2008年10月、東京都で発生したNICU等の満床による妊婦の受け入れ問題を受け、周産期医療の充実および人材養成の強化を目的とし、「大学病院における周産期医療体制整備計画」(文部科学省, 2008)が打ち出された。この計画を推進すべく文部科学省は、大学病院におけるNICU等の設置や、次世代を担う産科・小児科の専門職の支援等の人材養成環境の整備(文部科学省, 2011)等について、周産期医療を戦略的に推進してきたのは、上記のような社会的背景の変遷に関連していることが推察される。

2. NICUにおける臨地実習の展開内容

NICUにおける臨地実習の実習内容について整理した結果、実習方法についてほとんどの大学が「見学」であったことは、NICU環境の特殊

性により、実習方法を限局せざるを得ない状況にあることが考えられる。一方、NICU実習に対する学生の認識については、1) NICUの印象、2) NICUに入院している子どもへの感情、3) 親子関係への認識、4) NICU看護への認識の内容を記述しており、これらは実習内容や実習時間に関係なく、NICUにおける臨地実習に共通した学びとして抽出されていた。この結果よりNICU実習は、小児看護学において重要な「妊娠期から子育て期において安定した親子支援を目指した看護実践」を学ぶ機会に繋がっていることが考えられる。さらに、小児看護学における臨地実習の課題について、「小児看護学実習でしか学ぶことのできない子どもや家族へのかかわりを、学生は体験する必要がある」（太田ら、2017）とされており、学生の記述内容から、NICU病棟の実習においても、これらの課題達成は、十分可能であることが考えられる。

3. 本研究の限界と今後の課題

本研究では、看護系大学におけるNICUの臨地実習に関する研究について、看護系大学における看護教員の実習に対する認識を調査したものは、みられなかった。厚生労働省は、看護学教育における臨地実習の意義について「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」の中で、実際の医療の現状に即した実習に対する大学の姿勢が重要であることを報告している（厚生労働省、2011）。また昨今、地域医療や在宅医療が推進されている現代社会に即した臨地実習における学びの必要性（山内ら、2017）が指摘されている。このことから、各大学において今後、NICU実習を取り入れていくことが課題であると考えられる。さらに、今回、小児看護学以外の領域でもNICU実習を実施していたことから、看護基礎教育においては、継続看護の視点からも小児看護学領域のみならず母性看護学をはじめ在宅看護論等の関連領域と連携し、臨地実習に取り組む必要があると考える。

VI. 結 論

本研究は、看護系大学におけるNICUの臨地実習の現状と研究動向について文献レビューの結果、2010年代以降に研究が増加し、研究対象のほとんどが学生であり、NICU実習に対する学生の認識は、1) NICUの印象、2) NICUに入院している子どもへの感情、3) 親子関係への認識、4) NICU看護への認識であることが明らかとなった。さらに、NICU実習を担当している領域のほとんどは小児看護学が占めており、実習の展開方法は主に見学実習であるというNICUにおける臨地実習の現状が明らかとなった。

今後は、NICUにおける臨地実習を視野に入れた、学生の看護実践能力の向上を目指し、より効果的で充実した教育内容について検討していく必要性が示唆された。

謝辞：本研究にご協力いただきました全ての皆さまに心より感謝申し上げます。

利益相反：本研究における利益相反は存在しない。

付記：本論文の内容の一部は、日本小児看護学会 第29回学術集会において発表した。

文献

今井由理（2013）：NICU実習において学生が学んでいること—看護の心に焦点をあてて—、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録：教員・教育担当者養成課程看護コース、38、68-75。

蚊口理恵、長鶴美佐子、福永美紀他（2015）：母と子のつながり"の視点を入れたNICU実習の学習効果、日本看護学会論文集：看護教育、45、110-113。

糠塚亜希子、平元泉（2005）：実習記録用紙導入による低出生体重児の観察の意識付けへの効果、日本看護学会論文集：母性看護、36、104-106。

厚生労働省（2011）：看護教育の内容と方法に関する検討会報告書、<https://www.mhlw.go.jp/stf/>

- houdou/2r98520000013l0q-att/2r985200000134m.pdf [検索日:2019年7月22日]
- 厚生労働省(2018):平成29年国民健康・栄養調査結果の概要, <https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000351576.pdf> [検索日:2019年7月22日]
- 宮谷恵, 大見サキエ, 宮城嶋恭子(2013):教員からみた学士課程における小児看護学実習の現状—実習形態と情報収集を中心に—, 日本小児看護学会誌, 22 (2), 68-74.
- 文部科学省(2008):大学病院(本院・国公私別)における周産期医療体制整備計画, http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/12/08120506/001.htm [検索日:2019年7月22日]
- 文部科学省(2011):周産期医療に関わる専門的スタッフの養成, http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku.htm [検索日:2019年7月22日]
- 文部科学省(2017):看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～, http://www.mext.go.jp/component/amenu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2017/10/31/1217788_3.pdf [検索日:2019年7月22日]
- 成田みゆき(2006):本校における母性看護学実習—2000年度～2005年度における検討内容と実践報告, 東京医科大学看護専門学校紀要, 16 (1), 23-48.
- 大高麻衣子, 畠山飛鳥, 平元泉他(2013):NICU実習における効果的な実習方法の検討, 秋田県母性衛生学会雑誌, 27, 43-46.
- 大久保明子, 福原紀, 秋山啓子他(2001a):NICU見学実習による対児感情の変化, 日本看護学会論文集:看護教育, 31, 15-17.
- 大久保明子, 和田佳子, 秋山啓子(2001b):NICU実習の学生の対児感情におけるカンファレンス導入の効果, 新潟県立看護短期大学紀要, 7, 3-8.
- 大久保明子, 金井幸子, 加藤正子(2005):VTR教材「NICUの概要」の開発と有効性, 日本看護学会論文集:小児看護, 35, 161-163.
- 大見サキエ, 片川明子, 宮城嶋恭子他(2007):小児看護学領域における外来看護についての大学教育の現状, 日本看護研究学会誌, 40 (4), 383-390.
- 太田智子, 川名るり, 吉田玲子他(2017):小児専門看護師が考える小児看護学実習における学生への支援, 日本小児看護学会誌, 25 (1), 38-44.
- 岡澄子, 米山雅子, 山下亜美他(2014):NICU見学実習における学生の「学び」—学生の実習記録から—, 神奈川県立保健福祉大学誌, 11 (1), 61-67.
- 椎葉美千代, 田出美紀, 福澤雪子他(2015):母性看護学実習における二次医療施設と一次医療施設の学びと教授活動, 福岡女学院看護大学紀要, 5, 13-22.
- 白石佳子(2017):早産となった母児との関わりをとおしての学生の経験, 山口県立大学学術情報, 10, 101-106.
- 白坂真紀, 山地亜希, 桑田弘美(2012):NICU/GCU実習における看護学生の学び—小児看護学実習記録の分析から, 滋賀医科大学看護学ジャーナル, 10 (1), 22-27.
- 鈴木桂子, 高原楓(2019):低出生体重児と触れ合うことによるNICU実習の効果, 日本看護学会論文集:小児看護, 49, 75-78.
- 高橋由美子, 大見サキエ, 宮城嶋恭子(2012):学生が子どもの立場に立った看護が実践できるようになるプロセス, 日本看護科学会誌, 32 (3), 35-44.
- 玉村尚子, 小西美樹, 井上ひとみ他(2017):NICU実習を通じた看護学生の学び—ディベロプメンタルケアと児に出会って感じたこと・考えたこと, 獨協医科大学看護学部紀要, 10, 23-32.
- 和田佳子, 大久保明子(2002):母性及び小児看護学実習における看護学生の対児感情の変化, 新潟県立看護短期大学紀要, 8, 11-16.
- 山口雅子, 角真理(2016):母性看護実習における新たな試みと学生の評価, 和歌山県立医科大学保健看護学部紀要, 12, 49-56.
- 山内朋子, 川名るり, 筒井真由美他(2017):看護系大学小児看護学実習フィールドの現状と今後の研究課題に関する文献検討, 日本小児看護学会誌, 26 (1), 84-90.